

福島大学

令和6年度

「解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラム（リテラシー）
点検・評価報告書

全学教務協議会データサイエンス教育部会

令和7年4月

1. 点検・評価の実施概要

福島大学全学教務協議会データサイエンス教育部会が実施主体となり、令和6年度の『「解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラムに（リテラシーレベル）について自己点検・評価を実施した。

2. 点検・評価の対象

プログラムを構成する以下の3科目を点検・評価の対象とする。

- 「データサイエンス実践演習」（選択）
- 「データ分析入門」（選択）
- 「社会とデータ科学の基礎」（必修）

3. 点検・評価結果

履修者数・修了者数は表1の通りである。

表1. 履修者数・修了者数

	履修者数	修了者数	単位修得率
データサイエンス実践演習	20	20	100.0%
データ分析入門	80	66	82.5%
社会とデータ科学の基礎	1073	1002	93.4%

以下では、プログラムを構成する科目に対する授業評価アンケート結果を示す。

① データサイエンス実践演習

・授業内容の適切さ

54.5%が「適切だった」、45.5%が「ある程度適切だった」と回答している。

・授業方法の適切さ

54.5%が「適切だった」、36.4%が「ある程度適切だった」と回答している。

・授業内容の理解度

45.5%が「理解できた」、54.5%が「ある程度理解できた」と回答している。

・総合満足度

54.5%が「満足した」、36.4%が「ある程度満足した」と回答している。

② データ分析入門

- ・ 授業内容の適切さ

76.8%が「適切だった」、19.6%が「ある程度適切だった」と回答している。

- ・ 授業方法の適切さ

76.8%が「適切だった」、19.6%が「ある程度適切だった」と回答している。

- ・ 授業内容の理解度

46.4%が「理解できた」、41.1%が「ある程度理解できた」と回答している。

- ・ 総合満足度

67.9%が「満足した」、23.2%が「ある程度満足した」と回答している。

③ 社会とデータ科学の基礎

- ・ 授業内容の適切さ

66.3%が「適切だった」、28.9%が「ある程度適切だった」と回答している。

- ・ 授業方法の適切さ

69.1%が「適切だった」、27.9%が「ある程度適切だった」と回答している。

- ・ 授業内容の理解度

35.1%が「理解できた」、55.6%が「ある程度理解できた」と回答している。

- ・ 総合満足度

52.6%が「満足した」、39.1%が「ある程度満足した」と回答している。

単位修得率について、令和6年度は、データサイエンス実践演習で100.0%、データ分析入門で82.5%、社会とデータ科学の基礎で93.4%となっている。

授業評価アンケートからは、授業内容・方法の適切さ、授業内容の理解度、総合満足度といった項目について肯定的な回答の割合が高いことが確認できた。

4. 修了証の発行

令和4年度から「解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラムの修了者が出ており、修了証が発行されている（昨年度は14名）。今年度は、15名に修了証を発行した。

5. 今後の方針

授業評価アンケートの自由記述では、「難しい計算問題も、丁寧な説明でとても分かりやすかった」、「全体的に説明がわかりやすく、理解しやすかった」、「難しい所は難しかったが、楽しかった」という意見がある一方で、「割と文系には難しい内容が多かった」という意見も散見された。

令和4年度に立ち上げた「データサイエンス教育部会」を中心に、授業科目担当者と連携して継続的に授業改善を図っていく。

以上